



ビジネスに必要なのはテクニックよりも“想い” 起業家の想いをカタチにするフォトグラファー

こんにちは。サポート委員会の渡邊可奈子です。

第20回立志財団会員ロング・インタビューはStudio Like a 代表の真岡そら(まおかそら)さんです。

立志財団・坂本立志塾に入った当初は、フォトグラファー志望ではなかったそらさんですが、現在は人物専門のフォトグラファーとして活躍されています。今の活動を始めるに至った経緯や想い、今後の展望を熱く語っていただきました。

写真で想いをカタチにする

—まず、現在のお仕事について教えていただけますか？

真岡: “あなたの想いやストーリーを伝える”ための写真を撮っています。“何を買うか？”から“誰から買うのか？”の時代になりましたね。お客さん目線で考えると同じお仕事の方がたくさんいます。ネットで検索をすればいっぱい出てくるわけです。上の方はアナリティクスとかをやっている人があがってきて、そうじゃない人は下の方になっていく。私はそれが嫌なんです。みなさん何か想いがあるやっっているはずなんです。助けたい人とか、やっているきっかけがあると思います。だから、それをきちっと人に伝えることで感情が動かされる。「やってもらったってあなたがいい」って言ってもらえるものなんです。自分の想いを伝える手段はSNSなどいくらでもあります。だから、それを使ってどんどん発信してほしいんです。ただ、人に読んでもらうためにはまず目を引き付けないといけない。だから文字だけで伝えるんじゃなくて、その想いが伝わるような、感情が動くような写真を私がイメージして撮る、そんな感じでやっています。

魂が震えてフォトグラファーの道へ

—人物を撮ろうと思ったきっかけは何ですか？

真岡: 坂本立志塾の同期が大の写真嫌いだったんです。でも、「写真が必要だから撮って」と言われて撮影したんです。その時の同期が、まあ生き生きして“なんかおもしろいな、楽しいな”って思ったんです。撮ったものを見せた時に、同期が「こんなに私ってすばらしいんだね」って言ってくれたんです。この言葉はなかなか言えないじゃないですか。その後、普通に席に着いて坂本先生が次の講義の説明をしてくれたんですけど、“なんだこれ。なんださっきの感動。これもしかして魂震えてる？”って思って、

話が全然頭に入らないくらいでした。もうそれからです。それがきっかけでした。

私の真志命は『あなたの原石に光を当てる』です。

自分の姿って鏡の中でしか見ないですけど、もっと素敵なところがあります。私の写真でその人が気付いてくれて自信をもって“自分ってこんな面があるんだな”“こんなことにチャレンジしてみようかな”“なんか今迷ってるけど、もしかしたら全部やっちゃっていいのかな”とか。その人の背中を押して、気づきのきっかけになってくれたらいいなと思って撮っています。

長井慎さん、島田皓一さんと
日本橋オフィスにて



ビジネスを加速させる“ビジョンフォト”

—今後の展望を教えてください。

真岡: 温めていることがあるんですけど、まだ内緒にしておいてくださいね(笑)

『ビジョンフォト』みたいなのを撮りたいんです。そんな先の自分じゃなくて半年か1年くらい先でいいんです。事業家として1年後、こんな自分であればいいなというのを私が先に撮ってビジュアル化しちゃいます。例えば、洋服はこんなを着てる自分がいいというのだったらそれを着ます。髪型やメイクもこんな風がいいというのをしてしまいます。背景は、高層階のホテルで食事をしているところとか。でもそこで食事をしているところは写真に撮れないので、背景は合成になってしまうかも知れませんが、背景は重視しないので、イメージが湧いている将来の自分を実際にやってみる。それをビジュアル化してビジョンボード自分編みたいなものをやっちゃいます。それが引き寄せの法則とか、心理学的にもとても効果があるって言われています。⇒裏面に続く

—背景を合成でもいいというのは意外ですね。

真岡: そうなんです。私の中ではまずなかったんですね。でも、それが励みになるんだったらやるべきだなんて思ってたんです。はめ込んだってその人の励みになるんだったらそれはめちゃくちゃ価値があるんですよ。

だけど、プロフィール写真やSNS、HPの写真の場合、画像のはめ込みはお断りしています。お客様には自然なあなたが一番。ビジョンフォトはあくまで自分がそれを撮影を通して体感して、毎日見て、より強くイメージするための自分用の写真ですね。



テクニックよりも大切なのは想い

—想いの中でも“起業家”がキーワードなんですね。

真岡: 起業することの大変さをめちゃくちゃ知っていて、私は応援してもらったので、今度は私が応援したいんです。“マーケティングって何ですか？”と言っていた私が、人の力に助けられてなんとかなってきたので、それを伝えたいんです。応援してもらえたのは、私が真志命や、なぜこの仕事をしているのかというところを話したからで、そこにみなさん感動してくれたんです。もうちょっと、涙が出ちゃいます。

こうやって生きているのは想いを発信したからです。本当にそれで私はいろんな人に助けってもらったので、みんなもそれを発信すれば応援してもらえるんだよって伝えたいです。テクニックも大事ですが、これからは想いですよね、伝えようって言いたいです。面白い話にしようと思ったら自分で感動しちゃいました。

本物の想いを掘り起こす

—写真を撮るだけでなく想いに寄り添ってくれるんですね。

真岡: そうなんです。だから、ヒアリングにもっと力を入れたくて。今の状態だと「自分の真志命はこれです」って言われたら、「そうなんです」で終わりになってしまいます。それに合わせて撮っていきましょうってなるんですけど、本当にこの人そうなのかなって思う時があって。なので、ヒアリングを強化して丁寧に、もっともっと自分の過去のことを掘り出す作業から手伝ってあげたくくなりました。

今やっている前後のところをもっと充実させたい気持ちが強くて。もしかしたら痛いところをつかかもしれないし、辛い思いをするかもしれないけれど、結局真志命ってそういうものじゃないですか。闇の部分を出していく。でも闇を出すのって苦しいから、さらっと真志命はこれですって言っちゃうんですよ。そこの闇の部分掘り起こすのは、私ならお役に立てるんじゃないかと思ったんです。怖いけど、でもそれをしてから写真を撮ると絶対人への響き方が違うと思います。すごく時間がかかることかもしれないけれど、いつかは辿る道になるので、向き合うのは早い方がいいと思っています。

ビジネスを発展させる立志交流会

—最後に会員さんへのメッセージをお願いします。

立志交流会は絶対に出た方がいいです。私は立志財団にいて、立志交流会でお客様が増えています。ビジネスをしているんだったらとにかく立志交流会に来てください。逆にどうして出ないのかが分からないくらい(笑)。いろんな人と会った方がいいし、会員さんとも仲良くなれます。参加する方は想いに引き寄せられた人達で、お金よりも想いにアンテナが立っている人が来ています。私のお客様や仲良くなる人、ずっと付き合っている人達も、立志財団のゲストで来た人達が多いんです。1年前に繋がった人から急に撮影お願いしますって言われたり。他の交流会にも出ていますが、やっぱり立志財団の交流会が私にとってはすごくありがたい場ですね。

インタビューー: 渡邊可奈子

～お知らせ～

真岡さんのお仕事に  から

ホームページ

編集後記

途中で涙をされながら語っていただき、“起業家さんを応援したい”“みんなの想いを伝えたい”というそらさんの熱い想いが伝わってくるインタビューでした。

これまで“ありのまま”を大切に加工せずともその人らしさを写真で表現されてきたそらさんが、合成を使っても挑戦してみたいという『ビジョンフォト』。起業家さんのためになるのであれば価値があると、これもまた強い想いのこもったビジネスが今後どのように展開していくのかとても楽しみです。